

活動タイトル	ひきこもる子ども・若者を社会と繋ぐ中間就労システムづくり		団体名	NPO法人ニュートラル	
<p><b>1年間の活動 (アウトプット)の目標 (事業全体)</b></p>	<p>■居場所内内職的作業（ステップ①）：黒谷和紙協同組合から買い取った糊置き済みの和紙を、3～4回の型染と糊落としを4日間（1クール）で完成させる作業。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記作業を毎月1クール行う。（10月より開始）</li> <li>・型染技術向上のためのワークショップを、黒谷和紙協同組合の職人さんを招いて適宜開催する。</li> <li>・ひきこもる子ども・若者の家族や理解のある外部の人にもボランティアスタッフとして参加を促す。</li> </ul> <p>■居場所外就労体験（ステップ②）：スタッフ同行のもと、瘤木ぶどう生産組合スタッフの指導で行うぶどう栽培作業。</p> <p>1回1000円の「お手伝い賃」を受け取りながら、継続して通い、社会復帰のための持久力と社会性をつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぶどう販売（9月）→ 片付け、柵の補強など（10～1月）→ 木の剪定、枝の焼却、荒皮剥ぎ作業（2月）→ 枝の誘引（3月）→ ビニール屋根設置（4月）→ 芽かき、誘引、花穂整形（5月）→ つる切り、誘引、ジベレリン処理（6月）→ 摘種、袋掛け（7月）</li> <li>・「お手伝い賃」は月末に面談を行いながらその月の分をまとめて渡し、振り返り面談を行う。</li> </ul>			<p><b>■活動風景</b></p>  <p>和紙型染作業中の様子</p>	
<p><b>■活動報告</b></p>		<p><b>■1年間の目標に対する達成状況</b></p>			
<p>●居場所内内職的作業としての和紙型染作業の開催 毎月1クールずつ11回開催。技術向上のために少人数（若者1人+スタッフ3人）から開始し、徐々に作業グループを拡大し、1年間で8人の若者が作業を経験、うち6人が黒谷和紙協同組合に完成品を納品できた。</p> <p>●和紙型染のワークショップの開催 職人さんによるワークショップ開催を1年間に3回行い、スキルアップを図った。</p> <p>●ブドウ栽培作業参加を通じてひきこもる子ども・若者が居場所外で就労体験 スタッフ同行のもと、10人の若者が年間で延べ144回ブドウ作業に参加し、1回1000円の「お手伝い賃」を受け取った。季節によって作業がある時期と無い時期があったが、参加者10人のうち、2018年9月～2019年8月まで年間通して継続的に作業に参加した人は3人、体調や気持ちの状態の安定している時に時々参加したのは3人、単発参加が3人、ひきこもり状態から脱して7月から熱心に参加してくれた人が1人であった。</p> <p>●ひきこもる子ども・若者を理解してくれるボランティアの育成 和紙作業のボランティア参加者は2人、ブドウ作業のボランティア参加者は4人であり、そのうち継続して関わってくれたボランティアは2人であった。</p>		<p>●居場所内内職的作業としての和紙型染作業の開催、ワークショップの開催 当初予定どおり11クール開催。ワークショップも予定どおり年間3回開催。作業に従事した8人の若者のうち、単発の体験にとどまった2人を除く6人は、毎月作業を繰り返すうちにどうやって上手く和紙を染められるか自分なりに考えるようになり、完成品の質も上がって来た。6人全員が黒谷和紙協同組合から自分の完成品を買い取ってもらい、自信をつけることができた。</p> <p>●ブドウ栽培作業参加を通じてひきこもる子ども・若者が居場所外で就労体験 年間通して継続的に作業に参加できたのは参加者の3割。1年間継続して参加し続けることは、精神的に不安定さを持つひきこもり経験者にとっては高い目標だったようだ。しかし、年間継続できた3割の参加者は、確実に対人不安も軽減し行動範囲が広がっている。</p> <p>時々参加の3割にとっても、居場所の外でスタッフ以外の人たちと関わって就労体験ができたことは自信となっているようだ。</p> <p>●ひきこもる子ども・若者を理解してくれるボランティアの育成 和紙作業、ブドウ作業という具体的な活動に若者達と一緒にボランティアとして参加してもらうことは、ひきこもる子ども・若者と接する良い機会になったと考える。地域の大学生がボランティア参加してくれたことは、長期的に、地域内でひきこもりへの理解を促すことに繋がった。</p>		<p>ブドウ収穫、販売準備の様子</p> 	
<p><b>■1年間の活動のまとめ</b></p>		<p><b>■事業を通じて得られたノウハウ</b></p>		<p><b>■活動成果のアピールポイント（自由記入）</b></p>	
<p>当初の計画どおり、居場所内の和紙型染作業を開催し、居場所外でのブドウ作業の就労体験にひきこもる子ども・若者たちを連れていく事ができた。</p> <p>2018年8月以前も行ってたが完成品の質が上がらなかつた和紙作業は、この1年間で参加者それぞれが、講師のアドバイスを受けつつ自分でも創意工夫を重ねることが出来るようになり、安定して買い取ってもらえるまでにスキルアップした。参加メンバーの意欲も上がり、新しいスキルを学んで試し始めている。</p> <p>ブドウ作業は、季節ごとの作業量の変動はありつつも継続して参加すること、居場所の外で様々な人と関わることに重点を置いた。1年間継続して参加できた3人は力がつき、他者とのつながりができたことで関わる社会が広がった。また、それ以外のメンバーも、様々な人（ぶどう組合の人々やボランティアの若い人など）と関わる良い機会となり、なじみの薄い状況下でも作業に取り組む力をつけることができた。</p>		<p>●和紙型染作業 型染用の和紙代が1枚500円以上かかり、これまでは作業をすればするほど赤字になっていた。しかし型染のスキルが向上し、多色で染める方法を習ったことにより、本事業終了後も紙代支出で赤字になることなく、なんとか継続して続けていける方法を見つける事ができた。</p> <p>●ブドウ栽培作業 居場所の外で作業をすることは、居場所内で対人関係を持つようになった若者たちにとって、居場所外での対人の距離感を学ぶ良い機会となり、社会性がつくことがわかった。また、屋外作業に従事する事や、作業に継続的に参加することは、想像以上に体力、持久力のいる事であり、社会に出るためのステップとして重要であることが再認識できた。</p>		<p>この1年間の活動を通じて <b>ひきこもる子ども・若者たちの主体性の向上、対人不安の軽減、自己肯定感の醸成、社会性の向上</b> を達成しました。</p> <p>■受益者の変化（効果測定結果等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黒谷和紙型染作業を通じ、参加者たちの心の中に変化が起きてきた。自分で考えて創意工夫する力が育ち、完成品の買取を通じて自信が付き、もっとまくなりたいという向上心も高まってきた。</li> <li>・ブドウ作業を通じて、参加者たちの社会性や身体的な面で変化が起きてきた。対人関係が広がりさまざまな対人距離に沿って行動する社会性がつき、外作業による体力、持久力の向上も見られた。</li> </ul>	